



ひなどり

園だより 5月号
令和元年5月7日
新潟市立新津第三幼稚園

今年度の誕生会と、ふれあいタイム

園長 間嶋 哲

先日、4月の誕生会を行いました。(遊戯室で年少組2クラスが行うのは、5月からです。) 昨年度の誕生会でのプレゼントは、私のギター伴奏での毎月の歌と、最終的に4種類(?)に増えたスキンシップでした。今年度は音楽・体力系から離れ、しつとりと知力系でいきます。ずばり、読み聞かせです。

ある昔話を、主な登場人物の絵と、話の展開に欠かせない場面の絵を数枚使いながら話しました。ポイントは、最初からタイトルを知らせず、読み聞かせが終わってから、そのタイトルを想像させることです。登場人物として用意した絵は、タヌキ、ウサギ、そしてお婆さん。場面の絵としては、タヌキが何かを背負って、そこから火が出ている絵、そして、ウサギとタヌキが、それぞれ違う舟に乗っている絵です。

大人であれば、すぐにピンとくるかもしれませんが、答えは『カチカチ山』です。もちろん知っている子どもも大勢いたものの、別のタイトル案を聞いてみると、『ボウボウ山』という意見も出てきました。確かに話の筋を正確に追っていくと、あえて『カチカチ山』というタイトルにする必要もないことに気がきます。話の筋について興味のある方は、ネット等でお調べください。「ああ、そうだったのか」という気づきも生まれます。

保護者の方からも、昨年度とは違う参画をしていただいています。今年度は、我が子が赤ちゃんだった頃の思い出のモノをご持参いただき、そのモノに関する話を語っていただいています。今も使っているという方もいれば、「久しぶりに出しました」という方もいました。共通しているのは、それらのモノを眺めることで、我が子が小さかったときのことを思い出せるということです。それらのモノに関わるお話を聞かせてもらおうと、時には、私自身もしんみりとした思いに浸ることができます。

ところで、5月の連休が終わった頃から、随時、幼稚園の教育課程に「ふれあいタイム」を導入します。第三小学校の休み時間に合わせ、異年齢交流や幼小交流を自然な形で行っていくためです。いわば、幼稚園版休み時間です。昨年度から行った『成長の記録』同様、私たちの幼稚園のみが独自に行う取組です。クラスをこえた交流、そして、そこから自然に生まれる子ども同士の関わりが大いに期待できます。

